

## 第 14 章 経過観察

### 1. 経過観察の方向性

史跡八上城跡に関する施策の実現状況を把握し、継続して取り組むために、定期的な自己点検を実施する。自己点検ではPDCAサイクルの考え方にに基づき、実際の事業が計画の段階に掲げた目標を達成できているか確認・評価する。その結果を踏まえ、課題・問題点等がある場合には内容の改善や将来の保存活用計画の見直しにつなげる。また、自己点検を行うことにより、事業関係者間での目標達成への意識を高め、関係者の連携及び協力の円滑化を図る。

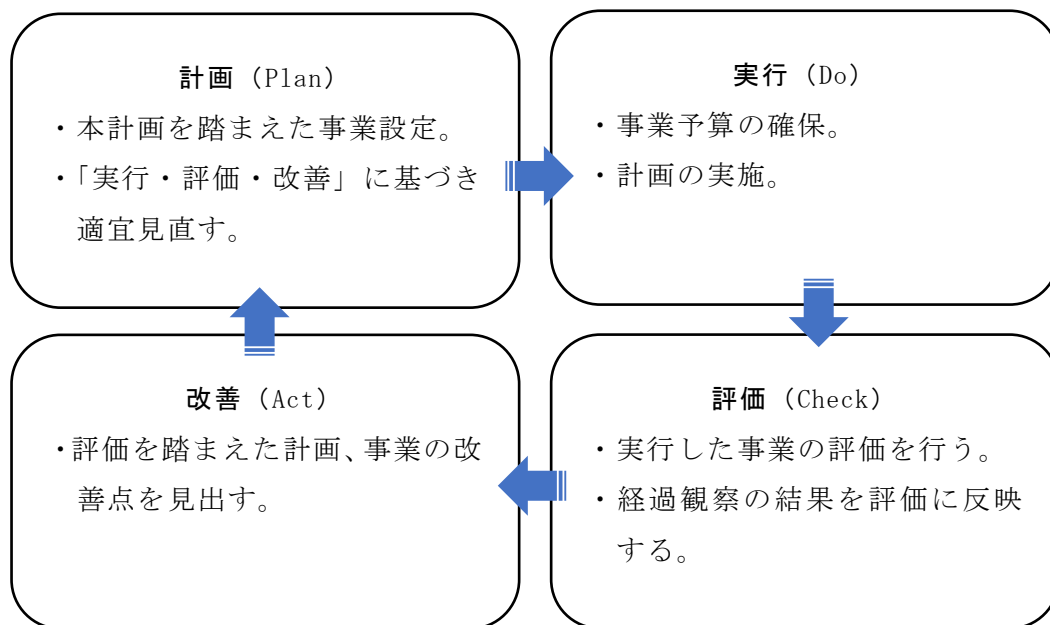


図 14-1 経過観察の方向性

## 2. 経過観察の方法

史跡八上城跡の経過観察は次の表 14-1 で示す内容を基に、年1回の頻度で実施する。また、これらの経過観察は丹波篠山市教育委員会が主体となり、各関係部署と連携して行う。

表 14-1 自己点検表（案）

項目	評価項目	評価内容	取組状況			
			未取組	計画中	取組中	備考 (現状、成果等)
共通	計画全体	(2年目以降)前年度の問題を解決できたか	1	2	3	
保存管理	指定地内の保存管理	定期的な点検により、遺構の保存状態を把握できているか。	1	2	3	
		三次元測量の実施や石垣カルテの作成によって、石垣の現状把握に努めたか。	1	2	3	
		主郭部崩落箇所等の保存対策を検討したか。	1	2	3	
		清掃や草刈りなどの維持管理を定期的に行っているか	1	2	3	
	災害の予防措置と発生時の対応	想定される災害について防災・減災対策を講じているか	1	2	3	
		適切な雨水排水経路が確保・維持されているか点検しているか	1	2	3	
		災害等が発生した場合、速やかに被害状況を確認したか	1	2	3	
		毀損が生じた場合、被害拡大防止のための応急措置を講じたか	1	2	3	
活用	本質的価値の幅広い周知	パンフレット・リーフレットを作成しているか。	1	2	3	
		パンフレット等の配布場所を確保できているか。	1	2	3	
		ウェブサイトやSNSを活用して周知できているか。	1	2	3	
	学校・社会教育資源としての活用	学習教材として利用できるリーフレットや副読本を作成しているか	1	2	3	
		学校と連携し郷土学習の場としての活用を推進しているか	1	2	3	
	研究資源としての活用	シンポジウムや講演会等を実施し、史跡の価値や調査成果の普及啓発を行っているか	1	2	3	
	関連する文化財との一体的な活用	関連する付城跡などを巡る周遊ルートを設定したか。	1	2	3	
		近隣の山城に関わる組織との連携強化に努めたか。	1	2	3	

項目	評価項目	評価内容	取組状況			
			未取組	計画中	取組中	備考 (現状、成果等)
調査研究	調査研究の推進	整備の実施にあたって、必要な調査研究を適切に行ったか	1	2	3	
		三次元測量データ等を用いて、遺構分布調査を行ったか。	1	2	3	
		これまでの調査成果・出土遺物についての検討を継続して行っているか	1	2	3	
	調査成果の公開	調査成果の公開を継続して実施しているか	1	2	3	
		調査成果の公開を目的とした講演会等を実施したか	1	2	3	
整備	保存のための整備	地形の保護に必要な整備を検討したか。	1	2	3	
		石垣崩落箇所等の保護について検討したか。	1	2	3	
		保存状況を日常の維持管理、経過観察によって、把握しているか	1	2	3	
		指定地内の樹木は定期的な剪定等で、生育の管理がなされているか	1	2	3	
		各種整備にあたって、本質的価値が正確に伝わるよう配慮したか	1	2	3	
	活用のための整備	八上城跡の見学ルートの改善を行ったか。	1	2	3	
		史跡地内の支障木の伐採等を行ったか。	1	2	3	
		法光寺城跡の見学ルートの整備に向けて取り組みを進めたか。	1	2	3	
		サイン整備が進められているか	1	2	3	
		便益施設の設置についての検討を行ったか。	1	2	3	
		各種整備にあたって、来訪者の安全に配慮して計画したか	1	2	3	
運営体制	庁内の体制整備	文化財担当部局の組織づくりが行われているか	1	2	3	
		庁内の他部局との連携協力は行われているか	1	2	3	
	関係機関との連携	研究・関係機関等と連携が図られているか	1	2	3	
		観光協会や観光ガイドとの連携が取れているか。	1	2	3	
	地域との連携	地域住民や関連団体にむけて情報発信を発信しているか	1	2	3	
		市民と協働で史跡を守り活かしていく体制づくりを構築できているか	1	2	3	